

母子生活支援施設における「自立」支援のあり方に関する一考察

—自立支援計画における「自立」の捉え方を考える—

母子生活支援施設 愛知昭和荘 武藤 敦士 (7809)

キーワード：母子生活支援施設、自立、自立支援計画、

1. 研究目的

1997年の児童福祉法改正により、児童福祉法に規定される各施設の目的に「自立支援」の概念が付加された。これにより、母子生活支援施設においても、個別世帯ごとの自立支援計画の策定が義務づけられ、それに向けた取り組みが進められてきた。この自立支援計画をめぐる今日的動向としては、2012年3月に発表された「母子生活支援施設運営指針」（以下、運営指針）によって、従来の世帯ごとの自立支援計画に加え、入所母子一人ひとりの個別自立支援計画の策定と、その実現に向けた組織的な取り組みが求められている。また、運営指針では、入所中の支援計画だけでなく、退所後のアフターケアも含めた継続的な一貫した支援計画の策定が求められている。

しかし、母子生活支援施設全体における実践とそれにもとづく研究の展開をみると、「自立」概念の共有化が未だ図られていないことがわかる。「退所」と「自立」の関係についても明確に示されておらず、アフターケアに関する実践や研究も進んでいない。そのため、「自立」を狭義の経済的自立とみなし、「自立」と「退所」を同義で扱うことから、アフターケアの実施に至っていない施設も存在する。

このことから、本研究では母子生活支援施設において支援目的となっている今日的「自立」概念について整理し、「自立」と「退所」の関係を明らかにしたうえで、若干の課題検討も踏まえながら、母子生活支援施設における自立支援計画のあり方について明らかにしていく。

2. 研究の視点および方法

母子世帯に求められている政策的な「自立」概念は「経済的自立」である。しかし、母子世帯の母親が、自らの労働力をもって経済的に自立することが困難なことは、すでに多くの先行研究や各種調査報告からも明らかである。

そのため、本研究では母子生活支援施設において支援する母子の目指すべき「自立」について先行研究等を整理し、運営指針を中心とした今日的動向を踏まえたうえで、「自立」に向けて母子が主体的に取り組んでいく自立支援計画のあり方について、退所後のアフターケアにおける支援計画も含めて検討していく。

3. 倫理的配慮

本研究で用いる資料等は、すべて公表されているものを使用している。引用に際しては出典を明らかにするなど、一般社団法人日本社会福祉学会の研究倫理指針にもとづいて研

究を行っている。

4. 研究結果

母子生活支援施設において支援する「自立」とは、狭義の「経済的自立」ではなく、入所母子世帯が自らの望むべき「自立」の姿を想定し、世帯としての目指すべき将来像を設定して、それを実現していくことである。母子世帯の実態やアフターケアの必要性とその目的から考えると、「自立」とは先行研究で示されているような、「退所」と同時、もしくはその前段階で達成されるものではなく、むしろ下図のように退所後に達成を目指す目標として位置づけられる。

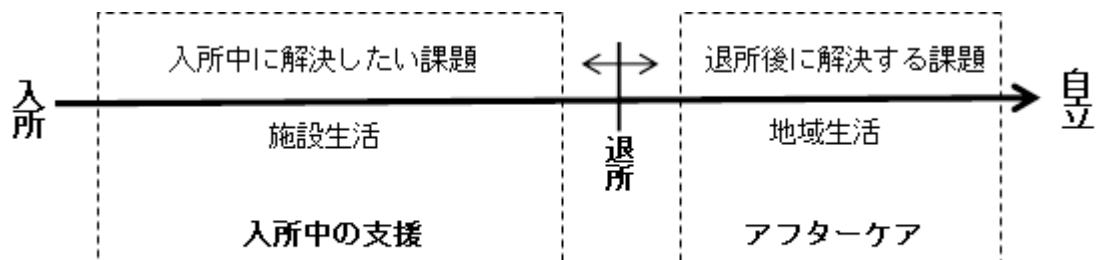


図1 施設入所から退所を経て自立に至る概念図

母子世帯の目指す「自立」は、世帯としての将来設計であることから、「退所」は「自立」に向けた取り組みの過程に位置することになる。母子世帯の取り組むべき課題は、入所中に施設生活のなかで解決する課題と、退所後に地域生活のなかで解決していく課題にわけられる。そのため、母子生活支援施設は、退所後の地域生活を視野に入れた一貫性のある自立支援計画の策定と、その実現に向けた段階的な取り組みを展開していかなければならない。

5. 考察

研究結果のとおり明らかになった「自立」と「退所」の関係を踏まえたうえで、母子生活支援施設における今日的な自立支援計画の作成について考察する際の、いくつかの注意点を指摘する。なかでも、最も注意すべきことは、当事者である母子が設定する「自立」には個別性があり、それに至るプロセスや要する期間にもまた個別性があるということである。それへの配慮を怠ると、自立支援計画が本来発揮すべき効果を失い、場合によっては計画を策定すること自体が、当事者である母子の「自立」にとってマイナスに作用しかねないことさえある。このような注意点を踏まえるならば、世帯としての「自立」と、それに向けて各世帯員が個別に設定する課題解決への取り組みを、自立支援計画の策定とそれに沿った自立支援の展開によって実現していく取り組みが、母子生活支援施設には求められていることが判明する。また、世帯の「自立」という母子生活支援施設独自の視点にもとづく自立支援計画の具体的な内容の検討と、それに沿った自立支援のあり方については、今後実践と研究の蓄積によって一層の推進を図っていく必要があると考える。